



# 日本薬学会

## 第127年会

個の医療の創生を目指した  
薬学の新展開



### 要旨集2

会期 2007年**3月28日**(水)~**30日**(金)

- 生物系薬学
- 環境・衛生系薬学

TOYAMA  
2007

## 28P2-pm016

*Phellinus linteus* (メシマコブ)熱水抽出物摂取によるマイトマイシンC誘導免疫抑制マウスの抗体産生能に及ぼす影響

○松葉 慎太郎<sup>1</sup>, 松野 栄雄<sup>1</sup>, 小松 靖弘<sup>2</sup>(<sup>1</sup>金沢医大, <sup>2</sup>サン自然薬研)

【目的】*Phellinus linteus* (メシマコブ) はタバコウロタケ科キノコ属に属し、日本、中国などに分布するキノコである。近年、メシマコブ含有成分に抗腫瘍活性などの生物活性を有することが報告されている。しかしながら、これまでの研究報告はそれらを試験管内もしくはマウスの腹腔投与により実験した結果であり、経口摂取による研究報告はほとんどない。そこで我々は、メシマコブの代替医療的応用を目的とした研究の一環として、メシマコブ熱水抽出エキス (PLW) を実験的免疫不全誘導マウスに本試験試料を経口投与し、抗体産生能に及ぼす影響について検討した。

【方法】8週令の C57BL/6J 系雌性マウスを対照群、MMC 対照群、MMC-PLW1 群、MMC-PLW2 群および MMC-PLW3 群の 5 群に分け、対照群と MMC 対照群には蒸留水を、MMC-PLW 群にはそれぞれメシマコブ熱水抽出エキス (PLW) 1、2、4g/kg を 19 日間連続経口投与した。被検試料を経口投与開始と同時に、MMC 群はマイトマイシン C (MMC) 1mg/kg を 6 日間連続腹腔投与し、実験開始 20 日目に脾細胞における抗体産生細胞 (PFC) の検出を行った。

【結果および考察】脾細胞 ( $10^6$  個) における対照群の PFC ( $502 \pm 93$  個) に対して、MMC 対照群は  $118 \pm 80$  個、MMC-PLW1 群は  $184 \pm 49$  個、MMC-PLW2 群は  $279 \pm 69$  個 ( $p < 0.05$ )、MMC-PLW3 群は  $183 \pm 79$  個検出された。脾臓重量については各群間における差は見られなかった。この結果から、MMC によって低下した PFC 産生能は、PLW の摂取により回復することが示唆された。現在はその活性本体について解析を進めている。